

特別支援学級における放送番組を活用した社会的スキルの育成

神奈川県横浜市立仏向小学校 教諭 東森 清仁

特別支援学級 生活単元学習 「で～きた！」

【番組紹介】

子どもたちに必要な集団行動・マナー・社会的スキルをよりわかりやすく、自発的に学ぶ番組である。何が「できていない」のかを、子どもが自分で気づき、なぜできないと困るのかを理解することで「できるようになる」ことを目指している。

【授業デザイン】

1 導入「日常の振り返り」

日常生活を振り返り、課題となる事柄、今回であれば友達との関わりについて、自分自身が普段どのようにできているか、そのことがどうして大切なのかを考える。

2 課題把握

番組の視聴前に視聴のポイントのスライド形式にして説明することで、登場人物がどのような場面で課題となる出来事に遭遇するののかの見通しをもたせる。

3 番組視聴

番組視聴後に最初に提示したスライドを振り返りながら、どのような問題があり、どのように解決していけばよいのかを振り返る。

第12回「なかまにいれて」

友だちにさそってもらったら、仲良く遊んだほうがよいし、みんなも気持ちよい。

「なかまにいれて」が言えないと、友だちと楽しく遊べない。

楽しく遊べないと、こまるのは自分自身。

4 まとめる。

児童の発言を基に、本時での押さえないポイント「なかまにいれて」のコミュニケーションができないと最終的に自分自身が困るという点に話し合いの中で気づかせるとともに、実践への意欲をもたせる。

【学級の実態】

本学級では今年度より低学年児童1名、中学年児童6名、高学年児童6名が一つの教室で活動に取り組んでいる。

活動の中でお互いに関わりあう場面も以前に比べ増えたため、コミュニケーションスキルの部分での指導が大切だと考えられる。

【今回の実践における番組効果】

- 日常生活指導において共通の関心や問題意識をよび起こして問題の解決を容易にする。
- よりよいコミュニケーションのあり方を示し、学習者の対話による学びを促進する。
- 自ら主体的に学級集団や社会にかかわってこうとする態度や関わるために必要なコミュニケーション能力を育てる。

【深い学びに関する教師の工夫】

「で～きた」では、ねらいとする課題の価値について児童が自発的に考える場面が意図的に設定されている。今回の活動では、休み時間に友達と仲良く遊ぶためにどのようなことに気を付ければ良いのかだけではなく、「なかまにいれて」の一言が言えることがなぜ大切なのかについて学級の中で意見を出し合いながら学ぶことに主眼を置いた。

課題意識をもつための番組活用

- 自分たちの生活の中で「なかまにいれて」といえた場面や言えなかった場面についてそれぞれ考えた後に、事前に用意したスライドで番組の視聴ポイントを説明するとともに、それぞれの生活と関連付けて考えていくことについての見通しをもたせる。
- 番組視聴後の話し合い活動では、自分たちの生活の中で課題となる場面について話し合う中で「なかまにいれて」ができないとどのような「困ること」があるのかを言語化していく。

ロールプレイを通して感覚を養う

- 話し合いの中で気づいた「なかまにいれて」の大切さをより実感するために、ロールプレイの活動に取り組む。「なかまにいれて」「いいよ」のやり取りを順番に繰り返す中で、その気持ちよさを実感するとともに、生活の中で実践への意欲を高める。



【成果と課題】

実践を通して、一人遊びや決まった友達と一緒に過ごすことを好む児童も、その他の友だちの遊びに興味を持ち、一緒に遊んでみようという意欲をもつことにつながった。また、「なかまにいれて」「いいよ」のやり取りを生活場面の中で継続的に繰り返すことで、友だちと一緒に遊びたいときの社会的スキルを定型的に身に付けることができると考えられる。

本学習は一単位時間の中で、友だちと一緒に遊ぶための社会的スキルへの気づきを促す内容である。実際の生活の中で折に触れ本時の活動を思い起こし、繰り返し実践していくことで児童の社会的スキルの深まりにつながると感じられた。